



東京バプテスト神学校 2026年度

「前期公開講座」のご案内

月曜

新約聖書学 A

講師 安井 聖

(日本ホーリネス教団井土ヶ谷教会・西落合教会牧師、東京聖書学院教授、関東学院大学・聖学院大学・立教大学非常勤講師)

この講座では、第一に新約聖書各巻の緒論的な知識を概観します。第二に各巻の神学、特にそれぞれがどのようなキリスト論を展開しているかを学びます。第三に各巻の神学的メッセージが、自分自身に、共に生きる人々に、自分たちの教会に、自分たちが生きている世界に対するどのような語りかけとなっているかを考察します。



毎週月曜日

19:00~20:40

＜テーマ＞ 新約聖書はキリストと出会う27の扉

1	4月 6日	オリエンテーション、四福音書概説
2	4月 13日	マタイによる福音書
3	4月 20日	マルコによる福音書
4	4月 27日	ルカによる福音書
5	5月 11日	ヨハネによる福音書
6	5月 18日	使徒言行録
7	5月 25日	ローマの信徒への手紙
8	6月 1日	コリントの信徒への手紙一・二
9	6月 8日	ガラテヤ、エフェソ、フィリピ、コロサイの信徒への手紙
10	6月 15日	テサロニケの信徒への手紙一・二
11	6月 22日	テモテ（一・二）、テトス、フィレモンへの手紙
12	6月 29日	ヘブライ人の手紙
13	7月 6日	ヤコブ、ペトロ、ヨハネ（一・二・三）、ユダの手紙
14	7月 13日	ヨハネの黙示録
15	7月 27日	新約聖書神学とは何か、史的イエスと信仰のキリスト

テキスト

【テキスト】レジュメを配信します。

【参考書】高柳俊一他『新約聖書のこころ』キリスト新聞社、2005年

フランシスコ会聖書研究所『聖書 原文校訂による口語訳』サンパウロ、2013年

後援会受講であれば、公開講座以外の平常科目も半額で受講できます。

詳細は神学校ホームページよりご確認ください。

【月】バプテスト史（講師：片山寛）【火】神学入門（講師：濱野道雄）【木】礼拝音楽（講師：菊地るみ子）

【木】ギリシャ語A（講師：平野健治）【金】説教A（講師：吉田真司）

【ビデオ講座】キリスト教史（講師：内藤幹子）ギリシャ語B・ヘブル語B・アラム語（講師：城倉啓）

東京バプテスト神学校 2026年度

火曜

旧約聖書学 A

講師 日高 嘉彦

(大秦野バプテスト教会協力牧師、北星学園大学教授・チャプレン、
タイバプテスト神学校講師)

旧約聖書（ヘブライ語聖書）は、古代イスラエルの歴史と信仰の歩みを通して、神と人との関係を問い続けてきた書物です。それは単なる過去の記録ではなく、時代ごとに異なる状況の中で、信仰がどのように理解され、語られてきたかを伝えています。本講では、旧約聖書を正典の形成や本文伝承、歴史・地理・文化といった背景を手がかりに概観しながら、各書がどのような問いの中で生まれ、どのようなメッセージを語っているのかをたどります。こうした学びを通して、私たちが今日、どのように聖書を読み、信仰を考えるのかを問い直していきます。必要に応じて、新約聖書との関係にも触れます。



毎週火曜日
19:00~20:40

<テーマ> 旧約聖書の世界を読み解く ― 問いとしての聖書

1	4月 7日	正典 1 ：正典という考え方を手がかりに、ユダヤ教の聖書（ヘブライ語聖書）がどのように形づくられてきたのかを、基本的な歴史の流れに沿って学びます。
2	4月 14日	正典 2 ：キリスト教における旧約聖書の成立を概観し、教派によって聖書の範囲が異なる理由と背景を整理します。
3	4月 21日	聖書本文 1 ：旧約聖書は、ユダヤ教の中で写本として大切に守られ、長い時間をかけて受け継がれてきました。本講では、聖書本文がどのように書き写され、正確に伝えられてきたかを学びます。
4	4月 28日	聖書本文 2 ：キリスト教は、翻訳された聖書を通して信仰を広げてきました。本講では、古代の翻訳や写本を手がかりに、聖書がどのように読まれ、理解されてきたかを考えます。
5	5月 12日	土地と暮らし 1 ：信仰は抽象ではなく、具体的な場所と世界観の中で形づくられてきました。本講では、聖書の人々がどのような「世界」を前提に信仰を語っていたのかを学びます。
6	5月 19日	土地と暮らし 2 ：聖書が生まれた土地や暮らしを手がかりに、聖書の表現や語りがどのように理解されてきたかを考えます。背景を知ること、聖書解釈がどのように豊かになるかを学びます。
7	5月 26日	季節と暦 ：季節と暦は、人々の生活と信仰のリズムを形づくってきました。農耕社会や日々の暮らしのサイクルが、信仰実践や祝祭とどのように結びついていたかを学びます。
8	6月 2日	祭り 1 ：祝祭は神の救いを「現在」として思い起こす行為です。秋、冬の祭りを取り上げ、その意味を歴史的背景とともに考えます。
9	6月 9日	祭り 2 ：春、夏の祭りを手がかりに、祝祭の理解が聖書の言葉や物語の読み方をどのように深めるかを考えます。
10	6月 16日	安息日 ：旧約聖書において安息日は、神と共に生きる一週間のリズムを形づくるものでした。安息日の意味を通して、信仰と生活の関係を考えます。
11	6月 23日	「イスラエル」史序論 ：聖書の歴史は、過去の出来事の記録だけではなく、「イスラエルとは何か」という問いへの応答として語られてきました。歴史の語られ方に注目し、聖書各書が生まれてきた背景を考えます。
12	6月 30日	五書の説話（アガダ） ：物語は、信仰を生き方として語る方法でした。本講では、説話がどのように語り継がれ、イスラエルの信仰理解を形づくってきたかを学びます。
13	7月 7日	五書の法（ハラハ） ：掟は、信仰を日々の生活の中で具体的なかたちにするためのものでした。「十戒」と「契約の書」を中心に、その背景にある社会状況と、生き方としての信仰を考えます。
14	7月 14日	申命記史書 ：歴史を「神との関係」で読み解く視点を学びます。申命記から列王記に共通する歴史観と編集の特徴を通して、歴史がどのように信仰の問いとして語られているかを考えます。
15	7月 21日	まとめ ：今日、旧約聖書を「問い」として読む意味を考えます。

テキスト

【テキスト】特にありません。講師は『協会共同訳』を使います。

【参考書】『新版 総説旧約聖書』日本キリスト教団出版局、2007年。その他、授業内で紹介します。

前期公開講座（オンライン）

金曜

牧会学

講師 才藤 千津子

（平尾バプテスト教会協力牧師、西南学院大学神学部教授）

この講義では、聖書の牧会理解やキリスト教牧会の歴史を概観したのち、現代の牧会学の主な理論について、また今日の教会で出会う牧会的課題のいくつかについて学びます。また、祈りや黙想、内省、話し合いなどを通して、キリスト者、牧会者としての自分に対する気づきを深め、自分にとって牧会とは何か、今日の社会の中で悩みや苦しみの中にある人々をどう支えて行けるかなどについて、ともに考えてゆきます。バプテスト教会では、信徒全員が、共に教会を形作り、共に宣教する使命を担います。ですから、牧会とは、牧師だけではなくすべての信徒に与えられた責務であり、恵みです。その意味で、どなたにも興味を持てるような授業を心がけたいと思います。授業は、講師による講義とディスカッション、エクササイズ、また、必要に応じて映像の視聴を交えながら授業を進めます。各講義の終了時には、授業の感想やコメント、質問を提出してください。次回の授業で講師が応答します。



毎週金曜日

19:00~20:40

< テーマ > 現代社会に生きるわたしたちの牧会

1	4月10日	牧会とは、牧会学とは、互いの自己紹介
2	4月17日	聖書に描かれた牧会
3	4月27日	キリスト教牧会の歴史から
4	5月8日	慰めの対話：トウルナイゼン
5	5月15日	傷ついた癒し人：ナウエン
6	5月22日	性差別と牧会：牧会学へのフェミニスト・アプローチ
7	5月29日	多文化共生のために：ラーティ
8	6月5日	パストラル・プレゼンス、パストラル・ガイダンス
9	6月12日	互いの話をよく聴く～相互牧会のために
10	6月19日	自分をよく知る：家族システムについて考える
11	6月26日	教会とハラスメント
12	7月3日	病いの中にある人と家族へのケアと終末期医療
13	7月10日	自殺（自死）とその予防、ポストベンション
14	7月17日	喪失体験・グリーフ（悲嘆）と牧会
15	7月24日	この授業全体のまとめと振り返り

テキスト

【テキスト】特になし 【参考書】チャールズ・V. ガーキン『牧会学入門』越川弘英訳、日本キリスト教団出版局、2012年、E. トウルナイゼン『牧会学—慰めの対話』加藤常昭訳 日本基督教団出版局、1961年、ヘンリ・ナウエン『傷ついた癒し人 新版』渡辺順子訳 日本キリスト教団出版局、2022年。その他、適宜授業内で紹介します。

後援会の会費が **月々500円から** ご支援いただけるようになりました。



ホームページの「後援会月々支援」のページで、クレジットカードを使ってご支援いただけます。スマホやタブレットからお手続きができますので、ぜひ皆様のお祈りとご支援をお待ちしています。

◀ **今すぐアクセス!** <https://tbts.jp/online-shien/> （後援会月々支援ページ）

2026年度 前期公開講座（オンライン）申込書

I. 受講科目（□に印をつけてください）

- | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| ☐ 月曜 「新約聖書学A」 | ☐ ライブ通信 | ☐ ビデオ通信 |
| ☐ 火曜 「旧約聖書学A」 | ☐ ライブ通信 | ☐ ビデオ通信 |
| ☐ 金曜 「牧会学」 | ☐ ライブ通信 | ☐ ビデオ通信 |
| ☐ 平常科目: | ☐ ライブ通信 | ☐ ビデオ通信 |

※平常科目は“後援会受講”のみ申し込みできます。

※ライブ通信はzoom経験者のみ受付します。 / 部分受講は受付できません。

※講義ビデオは学期末（9 月末）まで配信されます。

II. 所属（□に印をつけてください） ※複数回答ナシ（①～③のいずれかに印を付けてください）

- | | | | |
|--|----------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|
| ☐ ①本校学生 | ☐ 本科 | ☐ 教会音楽科 | ☐ 専攻科 |
| ☐ ②一般受講 | ☐ 単位不要 | ☐ 単位取得希望 | （※詳細は事務局までご相談ください。） |
| ☐ ③後援会受講（受講料半額） | ☐ 入会・更新希望 | ☐ 入会済み | ☐ 月々支援 |

III. 申込者

（ふりがな）

氏名:

郵便番号: 〒

—

住所:

電話番号:

所属教会:

Eメールアドレス:

◆教会共同受講（通信事務費免除）

※お申込みの際は神学校ホームページから配布する**共同受講用の申込書（Excel）**をご利用ください。

※締切日を過ぎてからの申し込みは受付できませんので、個人受講でお申し込みください。

個人受講料（1講座につき）

- 本校学生: 25,000 円
- 一般受講: 30,000 円
※通信受講は+5,000円の通信事務費が必要です。
- 後援会受講: 受講料 17,500 円
（通信事務費含む、但し単位取得不可）
※後援会会員になるためには「**年会費 5,000 円**」あるいは
「**月々支援加入**」が必要です。
※後援会年会費は献金日から1年間有効で、
「**払込金受領書**」を領収書とさせていただきます。

教会共同受講・受講料（1講座につき）

- 受講料 15,000円 + 後援会年会費 5,000円
※同じ教会から2名以上で受付します（通信事務費免除）。
受講は公開講座に限ります。



詳細は
神学校ホームページにて
ご確認ください。

tbts.jp

検索



< 教会共同受講 > 申込締切日 **2026年3月24日（火）**

< 個人受講 > 申込締切日 **2026年3月31日（火）**

※費用については事務局から請求書をお送りしますので、それを確認してから送金してください。

お問合せ

月・火・木・金
15時～21時

〒336-0017 さいたま市南区南浦和 1-2-4 東京バプテスト神学校事務局

● E-mail: seminary@tbts.jp ● TEL: 048-767-8542 ● FAX: 048-767-8543